

逆転ホームラン！

シリーズ～続 福音のカ～

2021/9/5



使徒言行録16章11～34節

わたしたちはトロアスから船出してサモトラケ島に直航し、翌日ネアポリスの港に着き、そこから、マケドニア州第一区の都市で、ローマの植民都市であるフィリピに行った。そして、この町に数日間滞在した。安息日に町の門を出て、祈りの場所があると思われる川岸に行った。…わたしたちは、祈りの場所に行く途中、占いの霊に取りつかれている女奴隷に出会った。この女は、占いをして主人たちに多くの利益を得させていた。彼女は、パウロやわたしたちの後ろについて来てこう叫ぶのであった。「この人たちは、いと高き神の僕で、皆さんに救いの道を宣べ伝えているのです。」

彼女がこんなことを幾日も繰り返すので、パウロはたまりかねて振り向き、その霊に言った。「イエス・キリストの名によって命じる。この女から出て行け。」すると即座に、霊が彼女から出て行った。ところが、この女の主人たちは、金もうけの望みがなくなってしまったことを知り、パウロとシラスを捕らえ、役人に引き渡すために広場へ引き立てて行った。そして、二人を高官たちに引き渡してこう言った。「この者たちはユダヤ人で、わたしたちの町を混乱させております。ローマ帝国の市民であるわたしたちが受け入れることも、実行することも許されない風習を宣伝しております。」群衆も一緒になって二人を責め立てたので、高官たちは二人の衣服をはぎ取り、「鞭で打て」と命じた。

そして、何度も鞭で打ってから二人を牢に投げ込み、看守に厳重に見張るように命じた。この命令を受けた看守は、二人をいちばん奥の牢に入れて、足には木の足枷をはめておいた。真夜中ごろ、パウロとシラスが賛美の歌をうたって神に祈っていると、ほかの囚人たちはこれに聞き入っていた。突然、大地震が起こり、牢の土台が揺れ動いた。たちまち牢の戸がみな開き、すべての囚人の鎖も外れてしまった。目を覚ました看守は、牢の戸が開いているのを見て、囚人たちが逃げてしまったと思い込み、剣を抜いて自殺しようとした。パウロは大声で叫んだ。「自害してはいけない。わたしたちは皆ここにいる。」

看守は、明かりを持って来させて牢の中に飛び込み、パウロとシラスの前に震えながらひれ伏し、二人を外へ連れ出して言った。「先生方、救われるためにはどうすべきでしょうか。」二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」そして、看守とその家の人たち全部に主の言葉を語った。まだ真夜中であったが、看守は二人を連れて行って打ち傷を洗ってやり、自分も家族の者も皆すぐに洗礼を受けた。この後、二人を自分の家に案内して食事を出し、神を信じる者になったことを家族ともども喜んだ。

フィリピでの思わぬ宣教妨害

- **神の導きに従って**フィリピにやって来た
 - 二度も聖霊によって道をふさがれ、トロアスで幻を見てマケドニアにやってきた
- 「祈りの場」に宣教に行ったパウロ
 - ユダヤ人たちの「会堂」の代わりに場所
- パウロたちについてきた女占い師
 - 彼女はパウロが神の僕で救いの道を宣べ伝えている、と言いつらした
- パウロは**イエス・キリストの名によって**占いの霊を追い出した

地図 23

ビティニア州に入ろうとしたがイエスの霊がそれを許さなかった

アジア州で御言葉を語ることを聖霊から禁じられた

の学者たちはこれを疑問視している。



地図

フィリッ

マケドニア



「マケドニア州に渡って来て、わたしたちを助けてください」

アネヤ

ガラテヤ

キリキヤ

かつては、パウロがベッシヌス、アンキラ、タヴィウムなどのガラテヤの町々を訪れたと信じられていたが、現在の学者たちはこれを疑問視している。

大地

中

海

不当な投獄

- 捕らえられ、訴えられたパウロたち
 - 金儲けの道具を失った女奴隷の主人は、嘘についてパウロらを訴えた
 - 群衆もおもしろ半分に彼らを責め立てた
- パウロらはひどい仕打ちを受け投獄された
 - 衣服をはぎ取られた
 - 何度もむち打たれた
 - 厳重な監視の元、一番奥の牢に入れられた
 - 木の足枷がはめられた

獄中の賛美

- 牢の中でパウロとシラスは**賛美の歌を歌い、神に祈っていた**
 - 激しい痛みと不快の中で
 - どんな賛美、どんな祈りだったのだろうか？
- ほかの囚人たちは彼らの声を聞いていた
 - 二人の様子が特別だったから
- 突然**地震**が起こり、牢の扉が全部開き、鎖もすべて外れた
 - 神様がパウロたちの賛美を聞いているうち、思わず足でリズムをとられた？

自殺しようとした看守

- 自殺しようとした看守
 - 囚人たちが逃げてしまったと思い込んだ
 - 扉は開き、静まりかえっていたから
- 囚人は誰一人逃げなかった
 - 不思議な出来事に驚き動けなかったのか？
- パウロは「自害してはいけない」と叫んだ
 - 「わたしたちは皆ここにいる。」
- 看守はパウロの前にひれ伏した
 - 「看守は、明かりを持って来させて**牢の中に飛び込み**、パウロとシラスの前に震えながらひれ伏し」

救われた看守とその家族

- 看守はパウロたちに尋ねた
 - 「救われるためにはどうすべきでしょうか。」
 - 看守はパウロたちのようになりたいと願った
- 救われるためには
 - 「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」
- 真夜中の伝道
 - 「そして、看守とその家の人たち全部に主の言葉を語った。」
 - 「まだ真夜中であったが、…自分も家族の者も皆すぐに洗礼を受けた。」

なぜ獄中で賛美できたのか？

- 神様を賛美できるような状況ではない！
 - そもそも主に導かれてやってきた町で、主の業を行って捕らえられ、鞭打たれ、牢に入れられた！
- パウロたちは無理して賛美したのか？
 - 牢から解放されるように祈ったのか？
 - 他の囚人が聞き惚れるほどの美しい賛美だった
- 彼らは試練を心から喜んだ！
 - 「わたしの兄弟たち、いろいろな試練に出会うときは、この上ない喜びと思いなさい。」ヤコブ1:2

逆転ホームラン！

- 賛美と祈りの中で奇跡が起った
 - 牢の戸がみな開きすべての囚人の鎖が外れた
- しかし誰も逃げなかった
 - 彼らにとっては牢獄がパラダイスだった
- 感動して救いを求めた看守
 - 本物の信仰は言葉はなくても伝わる
 - 看守とその家族も救われた
- 逆転ホームラン！
 - 最悪の事態が最良の結果を生んだ
 - 牢の扉と共に看守とその家族の心が開いた！

逆転ホームラン！

- 賛美と祈りの中で奇跡が起った

- し
- **苦難の時こそ、本物の
信仰を生かすチャンス！
そこに主の業が現れる！**

- 看守とその家族が救われた
- 逆転ホームラン！

- 最悪の事態が最良の結果を生んだ
- 牢の扉と共に看守とその家族の心が開いた！